



ツナガル × 防災 × まちづくり

2021
November
No.2

防まちこもんず

地域と一緒に進める川崎市の防災まちづくりを伝える広報誌

二子第二町会の 地域に根付いた取組

久々に気持ちのいい青空の広がった9月土曜の朝、多摩川に近い高津区二子の公園に20人ほどが集まり、防災訓練が行われていました。「一時的なものにならないように、チラシなどでお知らせすることはしていません。」と話すのは、二子第二町会の星野会長です。

高津区の二子第二町会は、平成29年から3年間、防災まちづくりを行い、防災倉庫の設置や消火ホースキットを使った訓練、地域の防災イベントなどを行ってきました。ガソリン発電機の購入をきっかけに、試運転を兼ねて今では毎月訓練を実施しています。

以前行った土のう作りの訓練では、「袋に砂を詰めたり、土のうを積むのにコツが必要だとは思わなかった。」と参加者から感想が寄せられました。令和元年台風19号の時には、近くで内水氾濫が起きているので、この経験は次に災害が起きたときに役に立ちます。

訓練は終始和やかな雰囲気です、偶然公園に遊びに来た人が参加することもしばしば。この日は隣の諏訪第二町会の方も来ていました。



この防災訓練は今年の3月から始められ、発電機の試運転に加えてリヤカーの組み立てや、消火器の放水、ロープ結びの訓練なども行ってきました。訓練を実施している大陸天公園は、現在は整備工事を行っているのですが、しばらくは場所を移して訓練を続ける予定とのことです。

緩やかに繋がりを広げていく防災活動

今回ご紹介する二子第二町会は、高津区の多摩川沿い、二子橋の近くにあります。多摩川沿線道路を走ると見える、真っ白な岡本かの子文学碑をご存じの方も多いのではないのでしょうか。

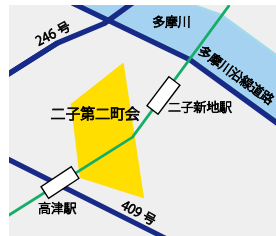
昭和の中頃までは農業が盛んで、多摩川梨が栽培されていましたが、南武線の複線化や田園都市線の延伸に伴って発展し、今ではおしゃれな個人商店で

賑わう街になっています。

二子第二町会の防災まちづくりは、地域に根付いた活動を行ってきました。周辺の町会と合同で行っている防災訓練では、子ども向けの防災講座や、地域の防災のポイントを歩いて巡るスタンプラリーを新たに行っています。

大陸天公園での防災BQも予定していましたが、こちらはコロナ禍の影響で中止に。状況が落ち着いた時に、また検討するそうです。

無理のない活動を続けながら、徐々に繋がりを広げていく二子第二町会の取組に期待が寄せられます。



二子第二町会会長 星野嘉徳さん / 「気張りすぎない方が、活動も続けやすい。地域の人も参加しやすいんじゃないかな」とのことでした。



高津区大陸天公園 / 明治に神社統廃合で二子神社に合祀された跡地に作られた公園で、園内にもその記念碑が残されています。

備えておきたい防災用品

水や食料、ヘルメットにマスク、ウェットティッシュ等の防災用品、いざという時に備えて皆さんも用意しているかと思っています。

ところで、個人で備える防災用品は聞いたことがあると思いますが、地域で用意しておくべきものって何でしょうか。防災まちづくりの取組でも、地域の方から度々寄せられた質問です。そこで過去に大きな災害に遭われた地域の自治会に連絡し、被災した中で実際に役に立ったもの、備えておけばよかつ

たものを聞いてみました。

リヤカーや、工具を揃えている地域は多いと思いますが、照明やラジオは、少し気づきにくいかもしれません。

左に載せた以外では、生活用水がとて不足したようです。トイレや掃除など、環境をきれいに保つのに重要で、飲み水以外にもたくさんの水が必要だったようです。もし地域に井戸があれば、地域で使える準備をしておくと良いかもしれません。

防まちこもんず
2021年11月発行 第2号
発行／編集 川崎市まちづくり推進課
市街地整備部 防災まちづくり推進課
〒104-4120 013012
イラスト作成 セガール井上



ラジオ

被災生活において避難所で待機する時間はとても長く、その間外部からの情報は心の支えになったそうです。手回しなど物資を必要としなくても充電が可能な物だと長期的に使えるので安心です。

例：手回し式、ソーラー式等



リヤカー

災害時には多くの場所で道路が塞がってしまいます。そんな時に重い物を一度に運べるリヤカーは大変重宝されたようです。組み立てやすく、運びやすい軽素材でできた物を選ぶといいでしょう。

例：折り畳み式、ノーパンクタイヤ等



照明

停電しているので、日が暮ればあたりは真っ暗になります。災害直後は夜でも救助活動を行いますし、避難生活では外のトイレを照らすなど、思った以上に様々な場面が必要だったようです。

例：投光器、懐中電灯、ヘッドライト等



工具

倒壊した家屋の瓦礫を持ち上げるのはもちろん、避難生活でも様々なシーンで役に立ちます。日用品も、自分たちで作らなければなりません。工具はあればあるほど良かった、とのこと。

例：ジャッキ、ボール、ハンマー等